

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1 応募者概要

団体名	(ふりがな: よこはましりつながただいしょうがっこう) 横浜市立永田台小学校		
代表者の役職・氏名	(ふりがな: たけやま ともこ) (役職) (氏名) 校長 武山 朋子	会員数	(令和2年11月現在) 423名
ホームページアドレス	https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nagatadai/	活動開始年月	昭和・平成 22年 4月
活動範囲 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 学校内 <input checked="" type="checkbox"/> 2 学校外 (永田台小学校周辺地域)		
活動分野 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 川・海・水 <input checked="" type="checkbox"/> 2 緑・樹林 <input checked="" type="checkbox"/> 3 農業 <input checked="" type="checkbox"/> 4 3R <input checked="" type="checkbox"/> 5 環境教育・学習 <input checked="" type="checkbox"/> 6 生物多様性 <input checked="" type="checkbox"/> 7 地球温暖化対策 8 その他()		
活動の目的やねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・米と生物多様性のつながりに気付き、自然を愛護する心情を育てる。 ・身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていて、自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないことが分かる。 ・地域の方から米作りの知恵と技術を伝承してもらうことを通して、地域の方とのつながりの大切さに気付くことができる。 ・地域の方、環境に携わる方との対話に進んで取り組み、協働的に問題解決に取り組んだりアイデアを出したりすることにより、行動変容につなげることができる。 		
過去に受けた表彰および受賞年度	第6回 ESD 大賞 小学校賞(平成27年度) きれいな街づくり推進功労者(令和2年度) <南区環境にやさしいまちづくり推進本部>		

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳細内容
平成30年度	① 稲いいね～米作りから広がる生物多様性～ ② エコプロ2018での発表、パンフレット	①75名 ②参加者(3～6年生) 329人、100部	・学校の敷地内で5年生が米作りを通して、農作業の大変さや米が収穫できたときの達成感などを、実体験のもと、経験することができた。その中で、地域の「ふるさと創生の会」の方10名にご協力いただき、毎回の作業で米作りの知恵と自然との共生について学ぶことができた。そこから、田んぼで生きる生物に関心をもち、田んぼの中での生物多様性についても考えることができた。年間を通した取

			組を、自然と人間の共生について米作りの実体験や調べたことをもとに、一人ひとりが発表物を作成し、エコプロ2018で来場者の大人に発表することができた。
令和元年度	<p>①未来につなげGOGO米（5年）</p> <p>②エコプロ2019での発表パンフレット</p> <p>③地域の清掃活動（3年・全校希望者・地域）</p>	<p>①80名</p> <p>②参加者（3～6年生）336人、100部</p> <p>③約30名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと創生の会」10名の協力のもと、米作りをした。米作りを永田台小学校が続けていくことができる大きな理由の一つに地域の方の協力があることに気付いた子どもたちは、地域とのつながりがこれからも永田台小学校で続いていくことが大切であると考え、「かがやき祭」で下学年につながるの大切さを伝えることができた。また、環境においては、米作りとSDGsとのつながりを考え、有機JASマークに関心をもち、農家の方も環境に配慮をした農業に取り組んでいることをエコプロ2019で、来場者の大人に発表することができた。 ・「ふるさと創生の会」のメンバーの方が、水生植物が繁茂して日光が入りづらくなったところを刈るなど、校内のビオトープの改善にも力を貸してくださった。子どもたちはビオトープ周囲の水はけをよくしたり、観察できるようにウッドデッキを新しくしたりし、環境整備が進んだ。 ・「ふるさと創生の会」とのつながりから、他の地域の方とのつながりに発展し、地域の清掃活動や道に愛称をつけるプロジェクトに子どもたちが地域の方と共に参加をし、地域の環境をよりよくしていくための行動が増えた。
令和2年度	<p>①いイネ（稲）いイネ（稲）（5年）</p> <p>②この木なんの木気になる木（4年）</p> <p>③地域の清掃活動（全校希望者・地域）</p>	<p>①67名</p> <p>②41名</p> <p>③約30名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍により活動に制限がある中での取組となった。「ふるさと創生の会」の方の健康に配慮し、自分たちだけでお米作りに取り組むことに挑戦をしている。疑問に思ったことは「ふるさと創生の会」の方に問い合わせ、アドバイスをもらい取り組んでいる。米作りと環境の関係についてこれから深めていく。子どもと触れ合うことは少ないが、「ふるさと創生の会」の方が、放課後に定期的に田んぼの様子を見に来てくださっている。 ・エコプロ2020はコロナ禍による中止が決定した。発信をする場として、校内発表での保護者と下級生への発表を予定している。 ・地域の環境のために活動をしたいという思いをもち、木を大切に作るプロジェクトを4年生が立ち上げた。公園の樹名板づくりを通して、自然環境を愛護する地域の方や行政の方とのつながりを大切にしながら取り組んでいる。

※ 現在活動休止中の場合でも、今後継続して取り組む見込みがある場合は応募の対象とします。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在活動休止中の場合には、「詳細内容」の部分にその旨を御記入ください。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	かがやき祭	年1回、1月に各クラスで生活科・総合的な学習の時間を中心として取り組んだ学習活動について、保護者や他学年に発信をしている。
自治会・町内会との関わり	永田みなみ台「まちづくり運営委員会」 ふるさと創生の会 道の愛称プロジェクト 公園愛護会	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり運営委員会」が中心となって開催する「つながり祭」は、2か月に1回、商店街の空き店舗を活用し、地域と学校が一体となって開催するお祭りである。その一環としてお祭りの開始時間前には、子どもが地域の方々と共に清掃活動を行っている。この活動が令和2年度「きれいな街づくり推進功労者」として南区より表彰された。 ・「ふるさと創生の会」の方の協力で、5年生の米作りや2年生の野菜作りなどの活動を行った。 ・道の愛称プロジェクトは、南永田山玉台連合町内会と「ふるさと創生の会事務局」によって立ち上げられた。令和元年度3年生が会合に参加し、地域の方と協働してまちの坂道の愛称を考えながら永田台の環境のよさについても共に考えた。 ・公園愛護会の方から永田台の自然を守るためにどのような思いをもって活動をしているかを聞き、永田台の自然を守るために自分たちに何ができるかを考え、樹名板づくりに取り組んでいる。
企業等との関わり	エコプロの参加企業	エコプロに出店している企業に、自分たちで関心をもった企業から話を聞き、活動に役立てた。
行政との関わり	南区区政推進課	<p>(活動内容が行政の補助事業である場合は、補助金交付の部署名と補助金の名称を記載してください)</p> <p>「桜プロジェクト」に参加をし、桜を通して、地球温暖化が進むことによる桜への影響や木の大切さを学ぶことができた。</p> <p>「みどりアップ事業」に参加をし、栽培委員会の子どもたちを中心に、校内緑化取り組んだ。芝桜や花を植えている。</p>
その他、環境以外の分野との関わり	NPO 法人 「ほっとサライ」	築40年を超え高齢化した南永田団地で、商店街の空き店舗を活用した憩いの交流の場や、生活支援と見守りの拠点づくりを目的に、平成30年に発足した NPO 法人である。令和元年6月には「サロンほっとサライ」がオープンし、ランチを提供するようになった。そこに令和元年度6年生がかかわり、サロンでの手伝いや看板づくり等を行いながら交流を深めた。このサロンには、令和2年度は2年生が自分たちで育てた野菜を、ランチ用に届けている。また、学校で採れたビワや柿も提供している。

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

本校では、平成12年に学校田んぼを造営し、米作りを始めた。当初より「ふるさと創生の会」にその支援をいただいております、田起こしから稲刈りまでお力を借りている。その「ふるさと創生の会」は、ふるさとの意識向上や地域活性化を目的に活動をしており、今年度で結成9年目を迎える。(2011年に南区からの補助金を受けて設立。地域団体「登り窯と永田の自然を守る会」の協力を得ながら、永田地区にある合山などの清掃やホタル再生をめざす自然保全活動などを行ってきた。設立3年目には、地域に残る竹を使って竹遊具を作る「竹遊会」を発足。小学校での昔遊びや田植え体験などの指導を行うことを通して、子どもたちに自然やふるさとを大切にする気持ちを育んでいる。)

会のメンバーに、古くから地元で農業に携わる方も多いため、生活科での野菜作りや昔遊び、ビオトープの管理・維持など、様々な場面でご協力をいただくことが増え、今に至っている。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

※自己評価やこれまでに改善したこと等を具体的に記入してください。

※中学生以下の団体は、児童・生徒が主体性を持って活動している取組（発案含む）についても具体的に記入してください。

- ・「ふるさと創生の会の方」との関わりの中では、5年生の米作りでの地域の方との継続したつながりにより、他学年にもその輪が広がっていった。また、身近な自然を愛護する気持ちもより高まっている。そこから日常生活に行動変容が表れ、環境に配慮したエコな日常生活への取組にチャレンジをする児童が増え、その活動は学級だけではなく、委員会活動でも活かされ、全校児童への活動につながった。（プラスチックを減らす取組、給食の残食を減らし、ごみを減らすことで地球温暖化の緩和への取組、グリーンカーテンや花栽培など校内の緑化活動等）
- ・地域の方が愛情深く、継続して関わってくださっていることで、子どもたちは、地域の方から愛されている存在であることに気付き、自分たちも「地域が元気になるための活動がしたい」という思いを強くもつようになった。特に今年度は、各クラスの活動が、コロナ禍で様々な行事の中止や外出制限がある中、地域の方を元気づけたいという思いにつながり、地域に貢献する活動となっている。また、SDGsの視点ももち、「自分たちの小さな力が大きな力になるんだ」という思いをもって、活動を進めることができています。
- ・「ふるさと創生の会」の方からは、「子どもたちと関わると元気をもらえる」「ふるさとを大切にしてくれる気持ちの高まりを感じる」など、子どもたちとの関わりを通して、地域の方の元気や思い、願いの実現になっていることが分かる。継続して取り組んできたことで、子どもたちが、地域の方と名前呼び合う関係となり、何か困ったことがあるときには、いつでも相談することのできる頼りになる大人の存在があることは、子どもたちにとっても主体的に学びを深める機会となっている。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

・平成26年に「ふるさと創生の会」の方々のご協力で、それまで土だけだった校舎の中庭に水が溜められるようになり、ビオトープが完成した。そこで蛍を放したいという願いをもち、カワニナを育てたり横浜黒メダカを放したりした。いつの間にか様々な種類のヤゴが観察されるようになり、夏になるとギンヤンマ、シオカラトンボ、アキアカネなど数種類のトンボがビオトープから飛び立った。

・田んぼや校内に設置したビオトープの観察を通して、田んぼにはヤゴ、カタツムリ、アマガエルなど様々な生き物が生息していることに気付いた。小さな田んぼとビオトープがあるだけでも様々な生き物が命をつなぐことが分かり、生物多様性を守るためにも、日本における田んぼの大切さに気付くことができた。

6 今後の活動方針

今後も、毎年「米作り」は「ふるさと創生の会」の方と継続をしていく。「ふるさと創生の会」の方との米作りは永田台小学校の伝統であり文化であり、口頭での引継ぎやカリキュラムなどの編成による枠を超えて、今後も絶えることのない活動になっていることは間違いない。

しかしながら、「ふるさと創生の会」の方の高齢化という課題があるので、保護者世代と「ふるさと創生の会」の方とのつながりの場をもつことが、ふるさと創生の会の方々の自然を愛護し、ふるさとを守り続ける思いを受け継ぐことになる。地域学校協働本部もその一つであり、今年度は校庭芝生の手入れを、学校と保護者、地域が一緒に行うこともスタートさせた。

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第28回は、審査会場でのプレゼンテーション（自己アピール）を実施しません。審査の参考とするため、最も注目してもらいたい取組・PRポイントについて具体的に記入してください。

【例】

- 最も注目してもらい・評価してもらいたい取組
- 一番成果があがっていると思う取組
- 他の団体と異なる自分たちの強み・独自性
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

ふるさとを愛し、自然を愛する永田台

～米作りでつながる地域、そして、子どもたちの元気が地域の元気へ～

【最も注目してほしい取組】

・10年間継続している米作り。そして、その米作りを通して、「ふるさと創生の会」の方との関わりを深め、自然を愛護する気持ちを育み、ふるさとに愛着をもつ気持ちが高まっています！

【永田台の強み】

- ・永田台小学校では、ユネスコスクール加盟10年目を迎え、ESDを推進してきた。持続可能な未来のために自分たちに何ができるのかを、職員や子どもたちが対話を通して、問い続けてきた。米作りの活動は、生物多様性を考えるきっかけとなり、そこから自分たちの生活様式を見直す行動変容へとつながった。子どもの変容は、家庭へとつながり、少しずつではあるが、永田台の自然環境だけではなく、地球環境へと視野が広がりつつある。
- ・ESDの取組の中で大切にされている「つながり」を、永田台ではとくに大切にしている。「ふるさと創生の会」の方とのつながりをきっかけとして、学校が地域によって支えられていることの自覚が生まれ、それが地域への愛着や参画意識の高まりへと広がっている。さらに、身近な地域との「つながり」が、様々な地域の方との「つながり」へと発展している。

【取組の中での努力・苦労】

- ・子どもたちが主体的に米作りに関わることができるような取組を、職員は授業づくりの中で工夫をして行ってきた。継続して永田台の文化として取り組んでいる米作りについて一つ上の学年から聞いて学ぶなど、子どもたち同士の学びを大切にしている。
- ・今年は、コロナ禍のため、地域の方との関わりに配慮が必要となった。その中でも、学校側から積極的に連絡をとり、いかに地域とつながり続けるかを模索し続けている。また、地域の行事がある場合は、職員自ら自主的に参加をし、学校の職員も地域の一員として、地域に貢献できるように努めている。
- ・学校の職員が入り替わっても地域とのつながりを大切に、学習を通して積極的に関わり続けるには、教育課程への位置付けが必要であると考えた。特に、どんな活動をするかという視点にとどまらず、地域と関わる活動を通して本校の子どもたちにどのような資質・能力を育成することができるのかを明確にし、共有することで、確実に取組が継続できると考えている。

【エコプロでの発表の苦勞】

・大人は立ち止まってくれない。

子どもたちは、「今お時間よろしいですか？」と尋ねてから、発表を行う。断られることも多い。しかし、それにはめげずに、何度もアタックをして伝え続けている。

・ポスターには書ききれない、思いを語る難しさ。

ポスターには、簡潔に、分かりやすく、まとめている。

実際には、ポスターの文字以上に自分の思いを言葉にしなくてはならない。自分が課題に対してどこまで考え、思いをもって活動してきたかが問われる瞬間である。

・相手の目を見て語ること

初対面の大人と目を合わせて、自分の思いを語ることには、相当の度胸が必要である。3年生から積み重ねることで、だんだんと度胸がついてくる。6年生ともなると、堂々と話す姿が見られ、成長を感じる。また、発信することの楽しさや喜びを実感しているので、学校内の活動でも発信の仕方は、自信をもって取り組んでいる。

5年

稲 いいね

つながり

支え合い

米作りから広がる

地域の人に教えてもらいながら...

田起こし



人に感謝

代かき



息を合わせて土を平らにしたよ

自然に感謝

手作業の大変さを知ったよ

田植え



愛川体験学習

それぞれの興味があることを調べよう

日本の伝統や文化を海外に伝えたい

世界はひとつ

お米の歴史をもっと知りたい

バケツ稲がうまく育たないのはなぜ??

豊かな自然とのふれあい

田んぼに関する生き物や自分達が住んでいる環境について知りたい



体験を通して深める

身近なことから考える

異文化を理解する

協力

何事も粘り強く最後までやり遂げる

努力

ふるさと創生の会との米作りの様子



【エコプロ2018】



ふるさと創生の会の地域の方の取組を紹介しています。自分たちが永田台のまちのためにできることを自分の言葉で大人に語っています。



地球温暖化にも目を向け、今、地球で起きていることを伝え、自分たちにできることを伝えていきます。大人から感想ももらうことで、自分の活動の励みになります。

【エコプロ2019発表写真】



日本のお米の安全性や環境に配慮した取組を農家の方がしていることを自分たちの言葉で伝えています。子どもたちは、学んだことだけではなく、自分の思いをどのように大人に伝えるかを悩みました。自分なりの言葉で伝えます。聞いてくれた大人からも意見をもらい、今後の学習に活かします。



永田台小学校のブースでは、全学年の生活・総合的な学習の取組を掲示して紹介しています。積極的に呼びかけをしています。



ふるさと創生の会の方を紹介し、地域で米作りの伝統が続くための取組をしていることのよさを伝えています。

3年生～6年生は、今年も、12月5日(木)・6日(金)に東京ビックサイトで行われた「エコプロ 2019」に参加し、各教科や総合学習での取組を発表しました。

SDGs

世界を
変えるための
17の目標



私が調べた森林のことをエコプロでもっとくわしく学びました。大人の人に「森林を守るために私もがんばります」と言ってもらえてうれしかったです。私も地球を守るためにがんばろう、と思いました。

4年



エコプロにいた人は、みんな SDGs のことを考えていました。企業の人もそれぞれ17の目標に取り組んでいて、自分にはない考えをされていて、すごいと思いました。

6年



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

14 海の豊かさを
守ろう

6 安全な水とトイレ
を世界中に

エコプロに行ったら水のじゅんかんのことがわかったので、行ってよかったです。3人の人に話を聞いてもらい、自分の目標を達成することができました。

4年

ブースの展示と共に、自分が伝えたいことを、来場者を呼び止めて発信する姿が今年も見られました。また、他のブースを見学・体験し、企業・大学などの持続可能な開発目標に向かっての努力・工夫についても学ぶことができました。



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう

ぼくは、「つながり祭をどうしたら盛り上げられるか」「自分たちがした『ほっとサライ』の活動」について発表しました。積極的に知らない人に話しかけ、伝わるように発表できたと思います。聞いてくれた人から、アドバイスをもらえてうれしかったです。

6年

13 気候変動に
具体的な対策を

3 すべての人に
健康と福祉を

11 住み続けられる
まちづくりを

12 つくる責任
つかう責任

15 陸の豊かさも
守ろう

ぼくはエコプロで CO2 を地中に閉じ込める「CCS」という技術を学びました。「CCS」とは、CO2を地中に閉じ込める技術で地球温暖化の切り札になると世界中が期待しているそうです。ぼくも、できることから取り組んで、地球を守ろうと強く思うようになりました。

5年



ぼくは「生き物のすみやすい環境」そして「理想のビオトープ」について発表しました。ぼくが伝えたかったことは「生き物たちにとってすみやすい環境をつくることで生き物たちを守ることができる」ということです。そのことをいろいろな人に伝えたい、と思ってエコプロに参加しました。たくさんの人に話しかけることはできませんでしたが、発表を聞いてくれた人が「理想のビオトープ、実現してね。」と言ってくれたので、発表してよかった、と思いました。

6年